

図書館報

第120号
平成18年1月10日
大分工業高等専門学校
図書館
大分市牧1666番地
TEL 097(552)6084
FAX 097(552)6786



ニューヨーク市立図書館は、世界で最も知られている図書館かも知れない。『ゴーストバスターズ』『スパイダーマン』『ザ・ディ・アフター・トゥモロー』といったハリウッド映画にも登場し、ニューヨークのランドマーク的存在になっている。

〈もくじ〉

題字「図書館報」	校 長 沖 憲典 筆	1
扉写真「ニューヨーク市立図書館」	一般科目・教員 大木 正明	1
シリーズ・私と読書「Will Computers Replace Books?」	非常勤講師 パトリシア・ハラ	2
「おおいた文学散歩道(4)」	一般科目・教員 山田 繁伸	5
私の推薦する図書「勝者のエスプリ」	電気電子工学科・教員 佐々木 透	6
私の推薦する図書「星の王子様」	一般科目・教員 篠田 和男	6
私のすすめた本「どんだん橋落ちたー伊園家の崩壊ー」	土木工学科5年 津崎 耕太郎	7
平成17年度 校内読書感想文コンクール入選者		7
「Que es Arpa?」	機械工学科5年 横尾 晋作	8
平成17年度(後期)学生図書委員名簿		8
編集後記	図書館長補佐 大木 正明	8

シリーズ・私と読書

Will Computers Replace Books?

非常勤講師 パトリシア・ハラ

Books play many roles in our lives. They offer great sources of knowledge, wisdom, humor, history, drama, academic study and our human story. We live in the internet age now and computers, software, online resources and google searches offer us a lot of information. However, no matter how high-tech we become, nothing can replace the joy of a good book. A story well told, offers us a world of insight into other times, minds, lives and experiences. Will computers overtake books? No, I don't think so.

For as long as we can trace human history, we can find evidence of the human need to tell a story. There are ancient cave paintings in France, Africa and in the Americas. There are drawings and hieroglyphics from ancient Egypt. In China there are stories and paintings written on tortoise shells and animal bones. Imagine our ancestors, thousands of years ago, wanting to tell their story and wanting to leave a message.

Imagine the time they spent finding a way to do that story telling. It is an innate part of human nature to tell our story. We have been doing it for 10,000 years.

When I talk to students about their hobbies many of them usually mention reading. In Japan, there are bookstores everywhere. When I first came to Japan, many years ago, I was very impressed with the Japanese bookstores and the love of books so evident in the Japanese people. Japan has one of the highest literacy rates in the world and thus, shows a great love of reading. Do you know that there is a part of the brain that actually grows when you read? The more you read the more your brain activity increases.

Children who grow up without television in

their homes have much higher reading levels and better academic performance. It is no wonder why this is so. It is a fact that reading increases brainpower!

My relationship with books started as a child. My father was a great reader and we always had books in our home. He read to me every night before going to sleep and he made it a lot of fun to share stories and books. I spent many hours in libraries in our town and in my schools. I remember my first visit to the Carnegie Mellon Library in Pittsburgh, Pennsylvania. To me, it seemed magical, exciting and full of promise.

It was a place where you could find out anything at all. Do you remember your first visit to a library?

During my university days, I had a part time job in our campus library. To this day, it remains one of my favorite places to have worked. My job involved helping students find books, information, magazine articles and newspapers for their research projects. I loved helping so many people find the information they needed in the library. I also had to help reshelve books students had returned and that meant long hours in the "stacks" replacing books in their proper places. My boss used to get a bit angry because I would disappear into the stacks for hours, getting involved with reading everything I came across. It was fun and useful work.

Computers are amazing machines and open up the world in fast and useful ways to us today. However, they can never replace books. There is a tactile experience to reading. You buy the book, bring it home, open it and explore information about the author, title,

background and themes. Then you start to read. You hold the book in your hands for hours as you pour over the words. Somehow, a good book becomes a part of you. And no matter how much I love my computer; we just don't have that kind of personal relationship!

It doesn't matter what you read, just read. Do you have a favorite book or type of book? I know many Japanese love reading comic books. This also surprised me when I first came to Japan. Adults reading comic books? However, now I understand the great popularity of manga and anime! Japanese anime and manga are now the number one sellers in the USA to teenagers? Now, we can see English translations of all the popular manga in the USA. When I was home in the summer, I found many Japanese manga at the check out counter of our local supermarket in the magazine section!

It is the love of the story that we all share. A good book or comic tells a story and enriches our lives, grows our brains and entertains us. It is a basic human need to share our stories and to learn from each other. Books have always been great friends for me and I sincerely hope they are for you, too.

So, as the information age continues to grow many people wonder if computers will replace books in our human experience. It is a useful idea to debate. However, in my opinion, books are personal, warm and occupy a part of our lives in ways computers have not yet done. Enjoy reading! Visit libraries and bookstores and make friends with the printed word. And someday, maybe you too will even write your story. Happy reading!

【日本語訳】

「コンピューターは本の代役になる？」

パトリシア・ハラ

本は、私たちの生活に大きな役割を果たしています。本は、知識の源、知恵、ユーモア、ドラマ、学術研究、そして人間の物語を大いに提供してくれます。一方、現代はインターネットの時代でもあり、コンピューター・ソフトウェア・オンライン情報源・グーグルが私たちに多くの情報を提供してくれます。しかし、どれほど高度な技術の時代になろうとも、良い本から得られる喜びに代わるものは無いのです。

人類の歴史を辿ると、人類が常に物語を語る必要性があったという証拠を私たちは目の当りにします。フランス、アフリカ、そして南北アメリカ大陸と、古代の洞穴には壁画が残されています。古代エジプトからは絵画や象形文字が見つかりました。中国には亀の甲羅や動物の骨に書かれた物語や絵が残っています。私たちの先祖が、数千年も前に、自分たちの物語を語ろうとし、メッセージを残そうとしていたのです。

自分たちのことを語る方法を探していた時代を想像すると、自分たちの物語を語ることが人間にとってどれほど本質的な部分であるかが分かります。私たちは一万年ものあいだ「語り」続けているのです。

私が学生さんの趣味について尋ねると、彼らの多くが大抵「読書」と答えます。日本には本屋さんはどこにでもあります。随分前になりますが、私が初めて日本にやって来たとき、日本の本屋さん(の数の多さ)と日本人の本への愛情に感心させられました。日本は識字率が世界で最も高く、それは本への愛情を示しているのではないのでしょうか。本を読めば、確実に脳のある場所が発達するというをあなたは御存知ですか？本を読めば読むほど、脳の働きは活発になるのです。テレビを見ないで成長する子供たちは、はるかに高い読書能力を持ち、優れた学術活動をします。別に不思議でもなんでもありません。確かに読書は脳の働きを活性化するのです！

私の読書との関係は、私が子供だった頃から始まります。父は多読家で、家には常に本がありました。父は、毎晩、私が寝る前に本を読んでくれ、物語や本を読む時間がすごく楽しみになりました。私は町にいても学校にいても、図書館で過ごす事が多く、初めてペンシルベニア州にあるカーネギー・メロン図書

館に行った時のことを良く覚えています。私にとって、そこは魔法の場所であり、ワクワクさせてくれる希望のたくさん詰まった場所でした。そこは、全てが見出せる場所だったのです。あなたは初めて図書館に行った時のことを覚えていますか？

大学に入ると、私は大学の図書館でアルバイトをしました。今まで働いた場所で最もお気に入りの場所といえるかもしれません。仕事は学生さんがレポートを書くのに必要な本・情報・雑誌記事・新聞を探す手伝いをするというものでした。沢山の人が図書館で必要な情報を探すのを手伝うことは楽しくて仕方がありませんでした。私は又学生さんが借りた本を元の位置に戻す作業もしていましたが、本を元の場所に置くのに決まって長いこと「書架作業」をしました。上司はしばしば腹を立てました、なぜなら私が何時間も書架に消え、見かけた本全てを夢中で読んでいたからです。とにかく楽しく充実した仕事でした。

コンピューターは素晴らしく、すぐに世界の情勢を提供し、私たちにとって便利です。しかしコンピューターには本の代役は出来ません。読書は血の通った経験です。本を買い、家に持ち帰り、開いて、作者・タイトル・背景・テーマについての情報を探る。それから読み始める訳だけでも、何時間も本を手を持ち、言葉を覗いては御茶を飲む。とにかく、良書はあなたの血となり肉となる。どれ程コンピューターが好きであっても、私たちはそんな個人的な関係を持つこ

とは出来ません。

何を讀んだか、なんて重要ではありません。ただ読めば良いのです。好きな本やジャンルはありますか？多くの日本人がマンガ好きです。私は日本に来た時これにも驚きました。漫画を読んでいる大人？でも、今では漫画やアニメが何故大人気であるのが分かります。今や日本のアニメや漫画はアメリカのティーン・エイジャーたちにも大人気です。大人気の漫画は英語版になってアメリカで売られているのですから。夏に私が帰省するとスーパーの精算カウンターの雑誌棚に漫画がありました。

私たちは皆物語を愛しています。良書も漫画も物語を提供し、人生を豊かなものにしてくれ、脳を発達させ、私たちを楽しませてくれます。物語を分かち合い、互いから学び合うというのは、人間の根底にある性質です。本は私にとって常に親友であり、それはあなたにとっても同じであると望みます。

情報化社会が続くこの時代、多くの人々はコンピューターが生活上、本の代役を務めるのではないかと思っています。そういった考えは議論するには役立つでしょう。しかし、私の考えでは、本は個人的なもので、血が通い、そしてコンピューターがまだ達していない私たちの人生の一部を占めています。読書を楽しみましょう。図書館や本屋さんを訪れ印刷文字と友だちになってください。そうすれば、きっといつかあなた自身の物語を書く日がくるかもしれません。幸せな読書生活を！



ニューヨーク市立図書館(内部)

おおいた文学散歩(4)

松下竜一「砦に拠る」を歩く

一般科目(国語) 山田 繁伸

作家松下竜一は、平成16年6月17日に亡くなった。享年67歳。市民運動家でもあった。松下の作品は、基本的にはすべてノンフィクションである。今回は、昭和52年筑摩書房から刊行された『砦に拠る』の作品舞台を歩く。

作品は、蜂の巣城闘争で有名になった室原知幸の苛烈な人生を聞き書き形式でまとめたものである。舞台は、当時の大山町から中津江村、熊本県小国町にかけての一带である。ダム建設に反対して、国家を相手に13年間戦った室原を描いている。そのダムは、松原ダムと下笠ダムである。室原の住んでいた志屋部落へ松下は取材する。その部分は、次のように描かれている。

日田市から志屋部落へは、川に沿う道を遡って行く。飯田高原に発した玖珠川が三隅川に注ぐあたりで小淵橋を渡れば、ここから大山川である。車が日田郡大山町の短い町並みを抜ければ、川に沿う道に迫って緑濃い杉山が続いていく。対岸も杉山である。20分程走った頃、最初のダムが見えてくる。松原ダムである。堰堤を渡る国道212号線と別れて、更に大山川沿いに県道を遡行すれば、すぐに貫見の地で大山川は杖立川と津江川に分岐する。私達の車は、大分・熊本の県境をなす津江川沿いに大分県側を遡行し続けたが、このあたりは旧道の水没に替えて山の高みに拓かれた道で、幾つもの隧道を抜けて行く。遙か眼下の湖底には、こちらの岸にも彼岸にもかつての部落台地が点在し始めている。

ダムの水位が下がっている時期には、昔志屋部落へおりにいくことが出来る。下笠ダム管理支所から津江川右岸に沿って少しくだり、左手へ車1台がやっと通れる道をおりにいく。川原に出ると、上手には下笠ダムの堰堤が聳え、下手には、水量は少ないとは言え、松原ダムの湖面が広がる。近くには、屋敷跡を思わせる石垣などが残っている。

室原ら反対住民が砦を築いた場所は、下笠ダム堰堤の小国町側であった。ここで、「公共性」という旗印を掲げた国家と対峙した。当時は山腹であったが、今は

堰堤よりも高いところとなり、桜の木の植えられた小さな公園となっている。「望郷志屋校之碑」が建てられ、水没した4部落の全住民の氏名が彫り込まれている。一方堰堤の左側高台には、慰霊碑が建てられている。21名の殉職者の氏名と住所が刻まれている。遠くは鹿児島県の名前もある。



下笠ダム堰堤から津江川右岸を1キロほどのぼると、蜂の巣公園がある。ここからの下笠ダム堰堤や蜂の巣湖の一望は素晴らしい。公園の一角には、松原・下笠ダムの資料を展示している入場無料の「しもうけ館」が建てられている。写真パネルや新聞切抜きを見学するだけでなく、貴重なビデオも視聴できる。

作品の最後の方で、室原がダム工事事務所長の福島と耶馬溪旅行をする場面がある。松下は、青の洞門をくぐった室原に「福島さん、土木工事ちゅうもんは、すべからくこげなふうの後代の者にまで称賛されるもんでありたいもんじゃ」と語らせている。ノンフィクション作品に臨場感を持たせているのは、会話の随所に出てくる方言である。

松下は作品のモチーフを「私もまた思いがけぬなりゆきから、1970年代の住民運動の渦中の一人となったが、自らが孤立した状況へと追い込まれるにつれて、室原の孤絶の晩年に思いは吸い寄せられていった」と書いている。湖面に映る美しい杉木立にも、深い悲しみが宿っている。



私の推薦する図書

勝者のエスプリ

アーセン・ベンゲル 著

(現イングランド プレミアリーグ アーセナル監督)

電気電子工学科 佐々木 透

スポーツ好きで、サッカー好きで、大分トリニータを応援している方にお奨めの本である。

日本人のスポーツ監督論は過去プロ野球を基本に主として精神論、美談、合理性などを主体に語られてきた。ベンゲルが来て前年最下位の名古屋をたった1年で3位に、さらに天皇杯優勝に導いたこのフランス人監督が日本に在留した2年間の足跡を辿る本である。

彼はサッカーのみならず日本文化論、教育論、政治、経済など多角的な視点から「日本」をとらえ、日本サッカー会に多くの示唆を与えた。フランス、ドイツ国境近くのストラスブール大学で政治経済学を学んだベンゲルは若くしてプロコーチの道を歩み始める。

- ・ ボールを持っている選手がその時々でベストの選択をすればよい。しかし日本人は選択権まで監督に指導を仰いでくる。
- ・ 私は「勝とう」とか、「勝て」などと言ったことがない。いつも「練習でやったことをしっかりと表現しよう」と言うだけだ。
- ・ 「勝ち」にこだわると、「喜び」よりも「厳しさ・効率」を優先するようになる。
- ・ まず「勝たねばならない」という義務感はスポーツを「ゲーム」ではなく、「仕事」に変えてしまう。本来スポーツは仕事をはるか超えたところにある。根底にあるのは「喜び」でなくてはならない。
- ・ 質の高いサッカーを目指せば勝ち星は自然と付いてくる。
- ・ 勝った経験の少ないチームに勝者のエスプリを植えるのは困難な作業。しかし自分は美しくないとと思っている女性に「あなたは美しい」と言い続けられれば美しく表現できるようになるものだ。

28歳の時、ストラスブールの小クラブで指導者としての道を歩み始めたベンゲルは、財政難にあえぐクラブを練習でカバーして選手を育成し、監督としての才能を開花させていく。現在、ロンドンの下町クラブ「アーセナル」を率いて10年目になるが、プレミアリーグ優勝3回、準優勝5回、130年の歴史を誇るFAカップ優勝4回と、その輝きはとどまることを知らない。いつもピッチ上で議論を重ねるスポーツファンに別の視点を示唆してくれるこの本は教育論としてもお奨めである。

話す内容が哲学的で論理的なこの知性派監督は日本人好みであり、ジーコ監督後の日本代表監督としても噂があがっている。

星の王子さま

サン＝テグジュペリ 著

一般科目 (英語) 篠田 和男

幸せを見つける方法をご存知ですか。

王子さまは言います。「さがしてるものは、たった一つのバラの花のなかになんかあって、すこしの水になんかあるんだがなあ」「だけど、目では、なんにも見えないよ。心でさがさないとね」

私たちは、目で見ることにより頼りすぎています。かつて、人間は神を見ていました。今の私たちは、実証されないものは信じようとしません。

この絵本は、のっけから強烈な一発を喰らわしてくれます。「おとなの人たちときたら、じぶんたちだけでは、なに一つわからないのです。しじゅう、これはこうだと説明しなければならないようだ、子どもは、くたびれてしまうんですがね」

今や、世の中あげて、「説明責任」だの「情報公開」だのに明け暮れています。本来は数値化できないものを、無理やり数字に置き換えて、わかったような顔をしています。

「おとなというものは、数字がすきです。新しくできた友だちの話をするとき、おとなの人は、かんじんかなめのことはききません。〈どんな声の人?〉(中略)とかいうようなことは、てんできかずに、〈その人、いくつ?〉(中略)とかいうようなことを、きくのです。そして、やっとなんか、わかったつもりになるのです」という言葉が心に突き刺さってきます。

王子さまにとって一番大事なものは、自分の星に咲く、たった一輪の花なのです。この花は、どこからか飛んできて芽をふいたのですが、珍しい芽なので、王子さまはつきっきりで見守ったのです。やがて咲いた花は王子さまを魅了しました。花は、しかし、自分の美しさを鼻にかけて、王子さまをいじめたのです。王子さまは花を愛していたのですが、花の心を疑うようになります。そして、ついに、故郷の星を去る決心をするのです。花は、実は、王子さまを愛していたのですが、それを認めるにはプライドが高すぎました。

王子さまは言います。「あの花のいうことなんか、とりあげずに、することで品定めしなけりゃあ、いけなかったんだ」「だれかが、なん百万もの星のどれかに咲いている、たった一輪の花がすきだったら、その人は、そのたくさんの星をながめるだけで、しあわせになれるんだ」

私のすすめたい本

「どんどん橋落ちた-伊園家の崩壊-」

綾辻行人 著

土木工学科 5年 津崎 耕太郎

今回私が紹介したい本は、綾辻行人さんの短編集「どんどん橋落ちた」です。この本は、いわゆる犯人当て形式の推理小説になっており、物語の中にちりばめられたヒントをもとに、読者が犯人を推理するというものです。そしてさらに、今回はその中でも特に面白かった「伊園家の崩壊」という作品を紹介したいと思います。

皆さんは「日本で一番幸せな家族は？」と聞かれたらどこの家族だと答えますか？私なら間違いなく「磯野家」と答えるでしょう。この作品のタイトルの「伊園家」とは、テレビでおなじみのあの「磯野家」をモデルにしたものであり、日本一幸せな家族の崩壊を描いたものです。そんなものいったい何が面白いんだという人もいるかもしれませんが、しかし私が面白いと感じたのは、伊園家の崩壊そのものではなく、作者の視点なのです。私が日本一幸せな家族だと信じて疑わなかった伊園家、もとい磯野家を、日本一不幸な家族へと変えてしまった彼の視点と想像力には、ただただ脱帽するばかりでした。

しかしよく考えてみると、もし自分が磯野家の一員だとしたら、確かにストレスの溜まることばかりでまともな精神状態を保つことは難しいと思います。例えば、サザエさんは買い物をしようと町まで出かけ、財布を忘れてただけでみんなに笑われ、あげくに犬にまで笑われます。そして磯野家がたった一日でも静かな日があると、隣近所の住人から「どなたかご病気ですか？」「お出かけしていたのかと思いましたよ」などと、無言のプレッシャーをかけられるのです。さらに、私が磯野家の中でも一番気になるのは波平さんです。一家の大黒柱であるはずの彼の存在は、完全に娘サザエの陰に隠れてしまっていますし、番組のタイトルにも彼ではなく娘の名前が起用されています。そして極めつけは、悪ふざけとしか思えないあの髪型です。彼の性格と彼の生まれた時代背景から言って、これらのことは相当彼のプライドを傷付けているに違いありません。しかし一家の大黒柱としての立場上、決してそのような素振りは見せず、「理想の日本の父親」を演じなければならないのです。

と、このようにひとつの物事をひとつの視点からではなく、多面的にとらえることで、さまざまな解釈ができ色々な楽しみ方ができます。「伊園家の崩壊」は、そのことを改めて私に教えてくれました。皆さんもこの作品を読んで、自らの視野と世界観を広げ、豊かな人間になっていただけたらと思います。

平成17年度 校内読書感想文コンクール入選者

	クラス	氏名	作品名	著者等
第1位	3E	高木陽子	テディ	J・D・サリンジャー
第2位	1M	花木悠	城の崎にて	志賀直哉
第3位	1C	増谷駿平	地獄変	芥川龍之介
佳作	1E	政谷賢祐	草枕	夏目漱石
〃	1C	橋本健	高瀬舟	森鷗外
〃	1S	河野万里絵	伊豆の踊子	川端康成
〃	2E	森永千春	天国の五人	ミッチ・アルボム
〃	3S	岡田直樹	天国の五人	ミッチ・アルボム
〃	3S	西田隆	老人と海	アーネスト・ヘミングウェイ
〃	3C	岡野寛雄	車輪の下	ヘルマン・ヘッセ

「Que es Arpa?」

機械工学科 5年 横尾 晋作

Buenos Dias!このタイトル、スペイン語で「アルパって何?」という意味をもっています。今日は珍しい楽器「アルパ」を紹介させていただきます!「アルパ」は、ラテンアメリカで民族楽器として使われています。16~17世紀頃、南アメリカにスペイン人がやってきたとき、一緒に来ていたハープを見た現地の人々は感動し、自分達で創り、発展させたのが現在のアルパの形となっています。演奏曲の中には「コンドルは飛んでいく」、「コーヒールンバ」などがあり、演奏されている国はメキシコ、ペルー、パラグアイ、アルゼンチン等多くの国で演奏され、南米の音楽にアルパは欠かせない存在となっています。中でもパラグアイのアルパは最も盛んに演奏されており、数多くの演奏家・作曲家が生まれ、世界へと羽ばたいています。

アルパの形は写真のように、ハープの形をしていいますがオーケストラなどに使われているクラシックハープに比べると小さく、材質も木製のため約6kgと軽くなっています。クラシックハープは40kg近くあります。以前会ったことのあるハープの演奏家は、マッチョな方に楽器を持ってもらっていたのを覚えています。私は絶対に運べない…。でもアルパは軽自動車にも



乗るので、あちこち演奏に行かせてもらっています!

アルパの最大のポイントと言えば、楽譜がない・半音が出ないの二つですね!なんだか欠点のように見えるかもしれないのですが、これがアルパのチャームポイントだと思います。演奏を終えたあと、「え!?楽譜ないのにどうやって覚えているの?」とよく質問されます。アルパは楽譜がない代わりに、教室の先生が弾く弦の場所や音を聴いて覚えていきます。いかにも民族楽器って感じですね。楽譜人間だった私ですが、何回か習っているうちに慣れてきました。不思議ですね、学校の勉強はなかなか入ってくれないのに…。日本の琴も昔は師匠と弟子が向かい合い、師匠の真似をして弾いていくというアルパと同じレッスン法だったと聞いています。そしてアルパのもう一つのポイントである半音が出ない、これもなんだか民族楽器感がビリビリ来ます。ですが最近ジャベと言う鍵を使って弦を短くし、半音あげる奏法が生まれてきました。これにより、ジャズ、映画音楽など様々なジャンルの曲が演奏出来るようになっていきます。

この「アルパ」という楽器の歴史はまだまだ始まったばかり、まだ誰も知らない「アルパの音」。これからは色んなアルピスタがその音を見つけていくと思います。音を楽しむ「音楽」。これは民衆の生活の中に存在する文化であり、心ですね。 Adios!

平成17年度(後期)学生図書委員名簿

学科	学年	1年	2年	3年	4年	5年
機械工学科		近藤 祐輔	安部 達也	都甲 紘千	村田 政幸	二宮 祐介
		安部 裕貴	安部 達朗	荻本 亜哉	吉廣 俊志	後藤 寛貴
電気電子工学科		橋本奈緒子	工藤 宏幸	川野 泰和	◎松下容子	荒倉 孝幸
		姫野 卓矢	平山 亮太	濱田 輔	釘宮彰宏	小手川裕輝
制御情報工学科		藤澤 寿洋	高畑 翔平	首藤 大輔	重光 葵	衛藤久美子
		丸山 志保	徳永 祐也	古賀 淳也	佐藤 祐輔	久保田哲哉
土木工学科 (都市システム工学科)		幸 俊也	末永 竜也	久光 沙知	大鶴 政輝	★松井 弘
		高木 啓太	瀧田 敏之	高野 健人	徳丸 和矢	◎山口武志

★委員長 ◎副委員長

編 集 後 記

読者体験によって培われる「豊かさ」とは何であろうか。それは決して単なる「知識」ではない(勿論、知識をひけらかすことでもない)。「豊かさ」とは、おそらく「量」や「質」といった統計的(あるいは結果的)な状態を指すのではなく、絶えず自らの内側から沸き起こる「意欲」、あるいは目の前に差し出された問題を解決していこうとする人間の行為そのものを指すように思われる。今回執筆していただいた先生方、学生諸君は皆、それぞれの「豊かさ」を、本当に印象的な文体を通して表現し、驚かされるばかりであった。心より感謝します。

(図書館長補佐 大木 正明)